

**『脊椎固定術(後方椎体固定)を対象とする術後早期回復を  
目指した周術期管理方法に関する研究  
—鎮痛剤定時投与クリニカルパス導入による術後回復の効果検証—  
』  
に対するご協力をお願い**

研究の目的と意義	この研究の目的は、手術後の痛みを最も軽減できる方法を見つけ出すことです。手術後の痛みを軽減して、早くリハビリを始めることで、早期の日常生活への復帰を実現することができます。
研究の方法	この研究の方法は、手術を受けた患者さんの診療録を調査して、手術後の痛みを最も軽減できる方法を見つけ出します。患者さんの個人情報を中心に守りながら実施されます。
対象者	2018年1月1日～2022年12月31日の間に、脊椎固定術(後方椎体固定(PLIF))の手術で当院に通院や入院をされた方
利用する試料/情報	患者背景(性別、年齢、原疾患、身長、体重、PONV( (postoperative nausea and vomiting: ポンプ) リスク因子、ASA (acetylsalicylic acid: アセチルサリチル酸) <麻酔チャートから術中麻酔管理方法> 手術時間、麻酔時間、出血量、尿量、吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、麻薬の総投与量、制吐薬、輸血の有無、硬膜外麻酔の有無と薬剤の内容、IV-PCA (Intravenous patient-controlled analgesia: 経静脈患者管理鎮痛法)の有無と薬剤の内容 <電子カルテから食事摂取開始時の喫食量> 食事開始時期(術後・・・時間)、最初の喫食量(主菜、副菜の摂取割合)、食事の種類 <電子カルテから在院日数> 在院日数 <電子カルテから離床> POD1 (Prevention of Disability: 術後1日)における離床は表を参考に点数化する <電子カルテからレスキュー鎮痛剤の使用頻度> 鎮痛剤の種類、使用量 <電子カルテから術後48時間以内のPONV発生頻度> PONVの有無
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録等から取得します。
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
研究資金源	テルモ株式会社から一部の研究協力資金を受ける予定です。 資金の用途は、統計解析、英文翻訳業者への委託料、論文投稿費用、事務手数料です。テルモ株式会社とは契約に基づき研究資金の提供を受けることにします。
結果公表	術後痛学会もしくは整形領域学会で報告予定です。
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2023年7月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 患者支援センター/センター長/谷口 英喜
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 患者支援センター/谷口 英喜